Ｒ４．１２．１５
第２号
通巻１５７号

学院通信

発　行
金光教学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷 1486
TEL(0865)42-3115
FAX(0865)42-3114

聖蹟巡拝（寂光院）

『神人物語』を生きる

学院長　大代　信治

ご本部広前のお結界にお座りくださる教主金光様のおひざ元、そのお広前の内容としての学院において、ここまでの生活、修行を進めてまいりました。道の働きのもとで神様に大切に育てられている様子に、日々ありがたく御礼を申し上げております。

そうした営みの中で学院生一人ひとりが、「神に心を向ける」との信行目標を掲げて、学行・信行に取り組み、道の教師としての生き方と素養を身に付けようと懸命に取り組んでまいりました。

こうした学院の働きは、日々本部広前の御取次を頂いてのことであり、学院そのものが御取次の心、そのご内容をもって進められているものであると思っています。どこまでも一人ひとりを大切にし、心をときはなして、すべてを神様の眼で見るけいこをし、神人の道を今月今日歩ませていただけるよう願って、全体の営みが進められているように感じます。

そうした中で教主金光様がお示しくださった、「ご恩を知り、ご恩に報いる」生き方を求め、教祖様のご信心を生活に現わすけいこを続け、天地金乃神様のありがたいことを伝える御用にお使いいただけるよう願っております。

教団の願いにある「それぞれの『神人物語』を編む」ためには、ここまでに受けたおかげを思い返していくことが大切です。更にそれを通してここからの物語を生きていくことにつながっていくことでもあるでしょう。学院での貴重な修行生活の中でお礼を土台にした生き方ができ、ここからの御用人生が「神人物語」を編みつつ生きていく今月今日となるように願われていると思っています。

実際の修行生活は大変厳しく、神様に心を向けようとしてもできがたい状況が生まれます。日々の御取次のもとに天地の広大無辺なおかげの中にあることを見失うことなく、気付きや目覚めを得て、神様に心が向かう生活を進めつつ、後期においては、「神の願いに生きる」との信行目標を掲げて、引き続きおひざ元でのけいこに取り組ませていただきたいと願っています。

ここまでを振り返って

学院次長　秦　浩治

学院本科生が入学してから早七カ月が経ち、月日の早さを感じております。

聖蹟巡拝として、絵師迫墓地や小野庄屋邸。吉備津神社、沼名前神社等を、また直信教会として、才崎教会や笠岡教会、芸備教会、六条院教会を学院生と一緒に巡拝させていただき、三十八年前の私自身の学院生時代の事が思い出され、懐かしさと一緒に昔と変わらない空間の中で時が止まったような感覚になりました。

ここまで振り返ると、五月にそれぞれが希望や不安を胸に学院寮に入寮し、見ず知らずの人たちと同じ屋根の下で修行生活が始まりました。今まで生まれ育った環境から一変し、特に個室での生活が普通となった今の人たちには毎日毎日が経験したことのない日々だったと思います。日々の生活の中で決められた事を覚えるだけでも大変だと思いますが、それに加えてそれぞれ価値観や生活習慣の違う人たちと関わっての共同生活に不自由に感じることも多いのではないかと思います。それでも、それぞれが自分の課題をもって、学行・信行に取り組む姿に、いつも守られ導かれている働きを感じております。それぞれが抱えている悩みや生活の中で起こる様々な問題に対して、自分に問いかけ、神様に心を向けるとの願いを持って本部広前でお取次を頂きながら、真剣に向き合う姿勢に人がお育ていただく働きを感じます。

先日、「教導」の講義でお越しくだされたある先生が「学院時代の事を振り返り振り返りしながら、今の御用を進めさせていただいています」と学院生にお話しくだされました。私自身も学院で御用させていただく中で、自分自身の学院生時代を思い返す機会も多く、何年経っても変わることができていない自分に反省させられる事も多くありますが、それでも少しずつお育てを頂いている自分にも気付かせていただきます。学院での修行は、教師として御用を進めていく上での原点であると改めて思わせていただいています。

いにしえより脈々と流れるこのご霊地のお徳につつまれ、教主金光様のお祈り、卒業されたお道の先輩やこのお道のご縁に繋がる多くの方々など、数多くの祈りの中に守られてのお働きがあり、そこで育ちゆく学院生も残り四カ月の修行を経て、卒業を迎えます。

「学院生活の願い」の中に「不断に御取次を頂きつつ、教祖に神習い、人間のあらゆる問題を信心の眼で洞察し」という言葉があります。まず自分自身の身の上に起こる様々な問題を通してお育てを頂き、ここからの修行成就と卒業してからの御用成就をともどもに祈らせていただきたいと思います。

修徳殿障子張り

池掃除

日程

（冬期在籍教会実習まで）

8月
31　帰院式

9月
1　第三回　求道の日
3・4　修徳殿障子張り
5　教話実習①
15・16　第一回　修徳殿入殿
17　聖蹟巡拝（吉備路）
27　学院・秋季霊祭
29～10/11　生神金光大神大祭御用奉仕

10月
14　教学研究所見学
17　学院・生神金光大神大祭

11月
1　第四回　求道の日
12　第二十四回文化活動合同茶会
17　聖蹟巡拝（寂光院方面）
24～26　第二回　定期考査
28　第二信心レポート懇談
29　創設記念式・直信教会参拝

12月
1　第五回　求道の日
6・7　第二回　修徳殿入殿
8～12　布教功労者報徳祭御用奉仕
15～29　冬期在籍教会実習

ここまでの歩み

■聖蹟巡拝（吉備路・寂光院方面）

金光大神の事蹟に関わる地を訪ね、金光大神の信心の足跡を辿るため、九月十七日に吉備路方面への聖蹟巡拝を実施した。まず、直信・片岡次郎四郎師の開かれた才崎教会に参拝し、教会長から「みきの信心」について詳しく教話を拝聴した。その後、教祖四十二歳の事蹟に関わる西大寺観音院を参拝し、吉備津神社では正式参拝の後、鳴釜神事を仕えていただいた。さらに、他宗教への理解を深めるため、本教と同じく幕末期に開かれた黒住教本部を訪れた。本部神殿に参拝し、黒住教の信仰についての説明はもとより、朝日を拝む「日拝」が行われる「日拝所」にもご案内いただき、資料館を見学させていただいた。

吉備津神社

黒住教本部（日拝所）

さらに、十一月十七日には大谷村の檀那寺である寂光院、氏神である加茂八幡神社へ参拝した。寂光院では、コロナ感染防止ため、紅葉彩る庭園で法要を仕えていただき、一人ひとりご焼香をあげさせていただいた。また、川手家先祖、教祖の養父母の位牌も拝観させていただくことができた。

■秋季霊祭・生神金光大神大祭

本部広前のご比礼を受け、学院広前において、九月二十七日に秋季霊祭、十月十七日に生神金光大神大祭が執り行われた。

これらの祭典は、神様と学院霊舎に祀られる物故職員と学院生を合わせて二百三十一柱の霊神様のお働きを受けて、ここまでの学院修行を進められてきたことへのお礼と真心を現す祭典として奉仕される。

祭典に臨むにあたり、祭員は、少しでも神様、霊様がお喜び下さる祭典を仕えられるように一カ月ほど習礼に取り組み、実意丁寧に祭典を仕えさせていただいた。さらに、祭詞起草員は起草・浄書、調饌・祭事係は神饌物や紙垂の調饌と祭具の調整、楽人は奏楽、舞人は吉備舞等、初めての御用に戸惑う者もいたが、学院生全員で御用を分担し、今日までのお礼の心をお供えさせていただいた。

どこまで尽くせば神様、霊様への真心のお供えとなるのかを求め、取り組み続ける姿勢をみることができ、御用を通して、学院生それぞれが、神様、霊様への思いを新たにする機会となったのではないだろうか。

学院・秋季霊祭

学院・生神金光大神大祭

■第三・四・五回求道の日

学院生活の基本に立ち返り、自己の信心を正していくことを願い、原則として月の朔日を「求道の日」と定め、一日のはじめに教主金光様のお出ましをお迎えさせていただき、終日黒衣で過ごし、講話、共励、覚筆写、徒歩行等を実施している。

第三回は、覚筆写と、夏期在籍教会実習内容をもとにした個別懇談を行った。第四回は、午前中は、『回生の冒険者　崔宰漢』を鑑賞し、午後からは、本部広前で神習を三十分行った。第五回は、午前中、教務総長岩﨑道與師にお越しいただき、来年、教祖百四十年のお年柄を迎えるにあたり、「教団の願い」について詳細にお話いただき、その内容をもとに午後から共励会を行った。

第四回　求道の日（神習）

■文化活動合同茶会

秋も深まる十一月十二日、学院広前において、文化活動合同茶会が行われた。合同茶会は、ここまでの文化活動で習得してきた成果を発表し、ほかの講師の先生方にも触れ合い、ほかの文化活動に対する理解を深めることを願いとしている。

書道では、個人が大切にする言葉を色紙に書き記したものが展示され、書き手がその言葉に込めた思いを紹介した。典楽の演奏では、様々な楽器が美しい音色を響かせ、合わせて華麗な吉備舞が奉納された。茶道では、実際にお点前が披露され、菓子とお茶が振る舞われた。五感で空間すべてを味わいながら、心和ませられる最高のひとときであった。

この半年間、ご指導いただいた先生方には改めてお礼申し上げたい。

文化活動合同茶会

■創設記念日記念行事

明治二十七年十一月二十九日、神道金光教会学問所が創設された。爾来、教師養成のことが進められ、今年で百二十八年を迎えた。

創設記念日である十一月二十九日には、午前八時より学院広前において創設記念式が執り行われた。記念式に引き続いて、斎藤重右衛門師が開かれた笠岡教会、佐藤範雄師が開かれた芸備教会、高橋富枝師が開かれた六条院教会に、それぞれ参拝した（参拝順）。各教会では、ご祈念、お届けの後、教会長から、初代にまつわる教話を拝聴した。

笠岡教会

芸備教会（神徳書院）

学院生は、直信諸師が人助けの御用に当たられた地を踏みしめると共に、それぞれのお広前の初代が道開きに尽

力された熱い思いにも触れ、ここからの修行生活における大きな示唆を頂いた。

また、道中には、教祖が厄晴れ祈願に参拝し、また、本教独立を願った佐藤範雄師が訪れた沼名前神社にも参拝した。

六条院教会（旧広前）

■修徳殿入殿

本部広前の修行生としての自覚を深め、教主金光様の御取次を頂くことの意義を再確認する。そのことを通して、お道の教師にお引き立てを願う者としての自覚が深まることを願いとし、入殿を実施している。

第一回　修徳殿入殿

第一回（九月）は、「教師志願の理由や、在籍教会・各家庭の信心の歩みをもとに、現在、どのような信心の流れの中にいるのかを確認する」との願いとして、さらに第二回（十二月）は、「ここまでの学院修行で学んだことをもとに、本教の信心生活について求め合う」という願いのもと実施した。輔導、副輔導の教導を頂き、また修徳殿という場のはたらきの中で、それぞれに、ここまでの学院修行を振り返り、ここからの取り組みについて示唆を得ることができた。なお、来年三月には卒業後を見据えての、第三回入殿を実施する予定である。

■自主活動

学院では、定められた日課に取り組む中に、自主信行として、学院生が願いを立てて、自ら主体となって企画から運営までを実施する「自主活動」を行っている。

スポーツ大会

十月二十三日には、金光吉備小学校の体育館を利用し、前期前半に引き続き二度目のスポーツ大会を実施した。皆で協力、分担しながら、チームに分かれてバレーボールやバドミントンで競い合う中で、体をたくさん動かし、楽しんで参加する姿が見られた。また十二月五日に、聖ヶ丘キャンプ場にて野外活動を行い、天地自然のはたらきを感じる有意義な時間を過ごすことが出来た。

野外活動

こうした自主活動を通して、学院生同士が交流を深め、互いに支え合い、助け合い、祈り合う関係が築かれていっているように感じる。今後も願いをたてて、自主信行としていろいろな活動を考えているようである。

学院生の声！

信心辛抱の実践

兵庫県・今津教会
西中（にしなか）　真也（しんや）

学院に入学させていただき、気が付けばもう半年以上が経過しました。復学者が加わって本科生は十名となり、少ない中ででも充実した日々を送らせていただいております。信心における考え方も文字通り「十人十色」ですが、その中でも立ち塞がる問題に対して学院生それぞれが「修行である」と認識し、真摯に取り組んでいるなと実感しております。

私の取り組みは「その時抱いた感情を大事にする」というものです。神信心には辛抱が大切であると言いますが、私は「辛抱」とは抑圧のような意味ではなく、「辛さをそのままに抱え、その上で考え行動していく過程」だと考えています。例えば、「御用に不満を抱くのは良くない」といった修正も勿論大切ですが、「何故自分は不満を抱いたのか」「何故良くないのか」といった疑問を反復し、そこに何か神様からの思し召しはないかを探っております。

残りの学院生活で、学院生一人ひとりが更なる成長に向かっていけたら良いなと思います。

教祖生誕奉祝行事

布教功労者報徳祭御用奉仕

お取次を頂いて

山口県・富田町教会
藤本（ふじもと）　千尋（ちひろ）

同期生の皆さんや先生方、いろんな人に支えられてここまでこさせてもらうことができました。そして何より、教主金光様のお取次を頂き、神様のおかげを蒙らせていただいて、今があると感じています。

夏期在籍教会実習から学院に戻ってすぐの頃、私は、いろいろと悩みを抱え、学院修行を続けていく自信も失いかけていました。そんな思いを在籍教会長である母に相談したところ、「あなたは、本部広前の修行生としてお預けしているから、金光様にお取次を頂きなさい」と言われました。そして、その言葉通りに本部広前のお結界に進みました。私は、学院に入学する際のお届けや、入学後、奉仕のお役でのお届けなどはさせていただいたことはありましたが、自分の心に抱えていることをお届けするのは初めてでした。私の拙い言葉を金光様は、あたたかい眼差しで聞いて下さり、たくさんのやさしいお言葉を下さり、私の心もほぐれていきました。そして、金光様から頂いたお言葉を、改めて考えていくと、希望に満ち溢れ、頑張りたいという気持ちが湧いてきました。このお取次を頂いたことが、私にとって学院修行を進めていく指針となっています。

ここまでの学院修行を通じて沢山のことを学ばせていただきました。まだまだできないことが多い私ですが、金光様のお取次をしっかり頂き、同期生の皆さんとともにおかげを蒙っていきたいです。

吉備舞（文化活動合同茶会）